

発行: 翔泳社  
定価: 2,940円(税込み)  
ISBN: 4-7981-0680-1  
著者: ローレンス・レッシング(訳: 山形浩生・守岡桜)

『CODE』『コモンズ』に続くローレンス・レッシング待望の3作目。もはや説明は不要だろうが、著者はスタンフォード大学ロースクール教授を務める憲法学者である。また、ミッキー Maus 裁判と呼ばれたエルドレド対アシュクロフト訴訟の代理人、著作物の自由利用を促進するクリエイティブコモンズの創設者としても知られる。

米国ではこの本の出版と同時にPDFデータ版が無料で配布され、話題を呼んだ。しかも、非営利ならだれもが再利用できるクリエイティブコモンズのライセンスによってだ。また、出版前には、日本に滞在していた筆者がマンガ文化を支える「同人誌」を知り、講演などで盛んに口に

していたことから、「萌え」や「コミケ」について熱く語られるのではないかという憶測もあった。だが、フタをあけてみればその話題はサラリと触れられるに留まっている。

本書は、法による行き過ぎた規制がテクノロジーによって生み出される新たなビジネスに対する阻害となり、ひいては文化をも滅ぼしてしまうと説く。趣旨は前2作と変わらない。だが、より「著作権」に話題的を絞り、実践的な内容が語られていて、いままで以上に理解しやすくなっている。

現在の社会は、ITがもたらすイノベーションを抜きには考えられない。そのとき法律はどうあるべきか。この本をきっかけにもう一度考えてみたい。

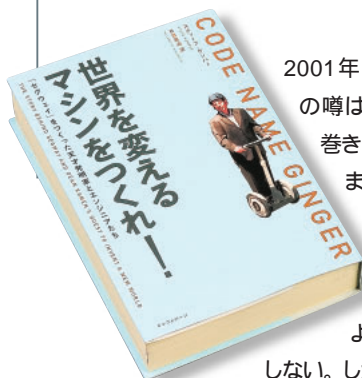
## 今月の気になる新刊

# 『FREE CULTURE』

著作権の強化にメスを入れる気鋭の憲法学者が放つ話題の3作目

世紀に発明に関わったヒーロー達の真実

### 世界を変えるマシンをつくれ!

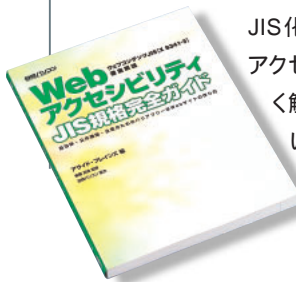


発行: インフォバーン  
定価: 1,890円(税込み)  
ISBN: 4-9018-7321-0  
著者: スティーブ・ケンパー(訳: 日暮雅通)

2001年に突如降ってわいたセグウェイの噂は、さまざまなニュースメディアを巻き込んだ騒動となった。販売が始まり製品自体は秘密でなくなった今でも、その開発過程における紆余曲折や、スティーブ・ジョブスやジェフ・ベゾスがどのように関わったのかは、はっきりしない。しかし、この本の著者は、発明者のディーン・カーメン本人から、セグウェイの開発過程のすべてを本にしてほしいと依頼され、そしてそのとおり出版することに成功した。世紀の発明の裏に隠された、エンジニア達の情熱、ベンチャーキャピタルの思惑、などなど生々しい証言がここにある。最後に訪れる著者とディーン・カーメンとの決別まで、目が離せないストーリーだ。

ユーザビリティにつながるウェブの必須科目

### Web アクセシビリティ JIS 規格完全ガイド

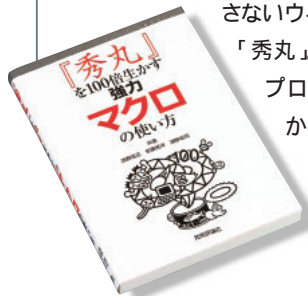


JIS化されて一気に注目を集めているウェブアクセシビリティを、JISの項目ごとに詳しく解説。コード例などはあまり掲載されていないので、具体例については本誌90ページからの記事を参照。

発行: 日経BP社  
定価: 3,900円(税込み)  
ISBN: 4-8222-1486-9  
著者: アライド・ブレインズ編

わかる人は知っている秀丸を最大限に活用する方法

### 『秀丸』を100倍生かす強力マクロの使い方



多くの編集者やプログラマーの心を捉えて離さないウィンドウズの定番テキストエディター「秀丸」。その真価とも言えるマクロ機能を、プログラミングの知識のない人でも初歩から学べる1冊。

発行: 技術評論社  
定価: 1,449円(税込み)  
ISBN: 4-7741-2069-3  
著者: 佐藤晃洋ほか

## 「キティちゃんに囲まれた」私のブログ」 サンリオブログ

Movable Typeなどのブログツールから始まったブログブームは、初心者でも簡単に使える無料ブログサービスが火を付けて爆発的に広がった。とは言え、まだまだ「ブログってなに？」という人も多く、老若男女というまでは広がっていない。

しかし、新しいユーザー層を惹きつける注目のサービス「サンリオブログ」が開始された。公式ファンクラブ「HELLO KITTY CLUB」の会員になれば自分のブログを開設できるサービスで、携帯電話からの写真投稿も可能だ。キティちゃんが登場して、サンリオキャ



URL <http://blog.hellokitty.ne.jp/>  
運営：株式会社サンリオ + 株式会社NTTデータ

クターの絵文字も使えるブログにキティちゃん好きはもうメロメロ。

11月30日までは「キティの日記」も公開される。ただ、開始2週間で4エントリーと、キティちゃんはちよいと筆無精なようですな。

## 戦前のニュース映像がストリーミングでよみがえる ViVia 蔵出しニュース映像館

ITは未来にだけ向けられたものではない。ブロードバンドの普及と技術の進歩は、昭和10年～15年のニュース映像の無料視聴を可能にしたのだ。

URL <http://kura.tv-asahipro.co.jp/>  
運営：ViVia( テレビ朝日映像株式会社 )



## ブログで読む「オレンジ色のニクイ奴」 タ刊フジBLOG

タ刊フジの人気コラムや記事などを1日に6～10個ほど掲載するニュースブログ。モバイルで読んだあとにノートPCを網欄に忘れないように注意。

URL <http://www.yukan-fuji.com/>  
運営：株式会社産経新聞社 + 株式会社ファンコミュニケーションズ



## 今月の気になるサイト

# 『TOKYO PICTURESQUE』

ケータイにGPSがついているのは自分のためだけではない

最近の携帯電話はすごい。カメラ付き、インターネット対応はもちろん、GPSまで装備している。日本でブログの人气が高まった理由の1つにカメラ付き携帯電話の普及とモブログがあるのは間違いない。

しかし、モブログでは写真とタイトルだけのエントリーが多く、「これはどこで撮った写真なんだろう」と気になるものだ。とは言え、携帯電話で文字を入力するのは面倒だし、出先でモブログするたびにその場所の住所を調べて書くなんてことはあり得ない。携帯電話にGPSが付いているなら、写真を撮った場所の緯度/経度の情報を使って場所を表示できそうなものだが、そこまで対応したモブログサービスで一般的に利用できる

ものはないようだ。

「TOKYO PICTURESQUE」は、自分のブログに投稿するいわゆるモブログサービスではないが、GPS付き携帯電話のカメラで撮影した写真をメールで送ると、写真データに埋め込まれたExifの情報を使って、サイト上の航空地図に撮影地点をマッピングする。まだ 版の実験サイトで東京23区しか対応していないが、投稿された写真が緯度・経度・高度・時間・機種名などと共に地図上の該当の場所に表示される。

ブログポータルにこんな先進的なサービスがあれば魅力的だと思うのだがどうだろうか。もちろん、1画面に写真が500枚表示されてもどうしようもないのだが。



URL <http://www.downgoesthesystem.com/devzone/exiftest/final/>  
運営：ケンタロウ

日本語の解説も用意されている

URL [http://www.downgoesthesystem.com/devzone/exiftest/details/index\\_j.cfm](http://www.downgoesthesystem.com/devzone/exiftest/details/index_j.cfm)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)